

令和 6年 9月26日  
博士人材の民間企業における活躍促進に向けた検討会(第2回)

# ジョブ型研究インターンシップについて

文部科学省

ジョブ型研究インターンシップ推進協議会事務局  
(株式会社アカリク)

# 制度の概要

## 内閣府

【達成目標】 産業界による理工系博士号取得者の  
採用者数を約1,000名（約65%）増加（2025年度）

【施策の方針】 博士課程学生の長期有給インターンシップの  
単位化・選択必修化の促進（令和3年度～）

【具体的な施策】 企業との連携による長期有給  
インターンシップの推進（令和3年度～）

## 経団連

「多様で複線的なインターンシップの目的、意義、内容、期間等について、  
産学及び社会的な共通認識を改めて確立する。その上で、  
**新たな理解に基づくインターンシップを積極的に推進**する。  
また、**そのための仲介機能の強化を検討**する」

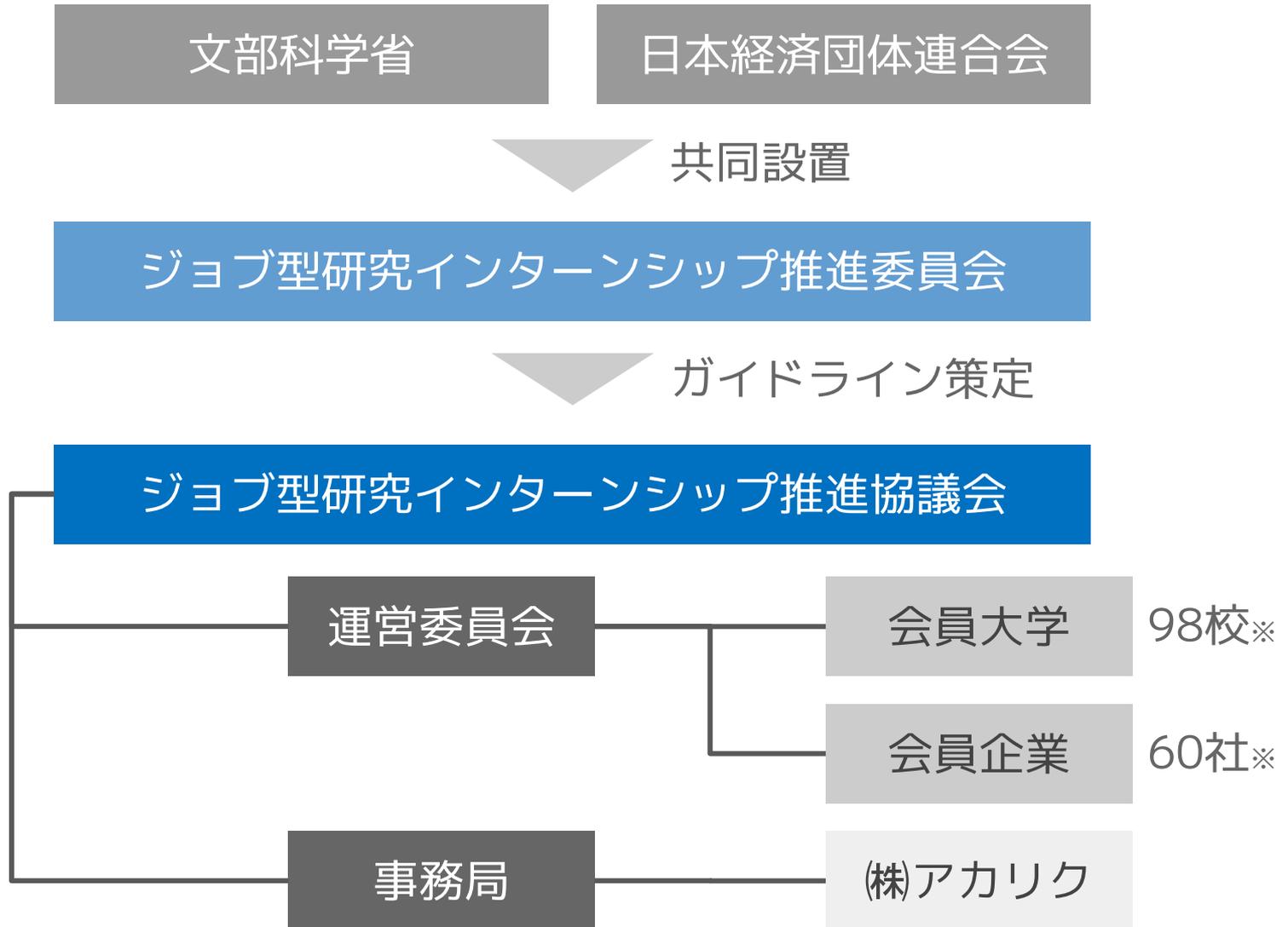
**大学院生（修士・博士）を対象とした新たなジョブ型  
採用につながるインターンシップの試行を推進**する

大学院教育の一環として行われる長期間かつ有給の  
研究インターンシップの普及により、

**Society 5.0に相応しい雇用の在り方と  
高等教育が提供する学びのマッチングを図る**

- 1 安心して博士課程への進学を選択できる環境をつくる**
- 2 産業界と大学が連携して大学院教育を実施する**
- 3 大学院生の実践力を養成する**

+ 学業に支障をきたすことなく、成果を採用活動にも活用



※2024年9月18日現在

1

研究遂行の基礎的な素養・能力を持った大学院学生が対象  
(当面は**博士課程**)

2

**長期間** (原則として2ヶ月以上とし、内容に応じて短くすることも可能) かつ  
**有給**の研究インターンシップ

3

**正規の教育課程**の単位科目として実施

4

ガイドラインに沿った**ジョブディスクリプション**を提示  
(業務内容、必要とされる知識・能力等)

5

インターンシップ終了後、**評価書・評価証明書**を発行

6

インターンシップの成果は、**採用選考活動に反映することが可能**

出典：文部科学省「ジョブ型研究インターンシップ(先行的・試行的取組)実施方針  
(ガイドライン)」[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/internship/1421136\\_00002.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/internship/1421136_00002.htm)

## ポイント1 「長期・有給・ジョブ型」

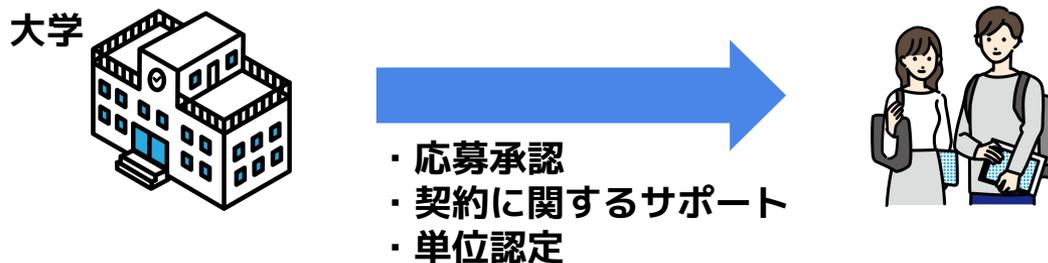


受入先のインターンシップ実施機関との相談のうえ、  
研究活動との兼ね合いを考えたスケジュール設定が可能です。

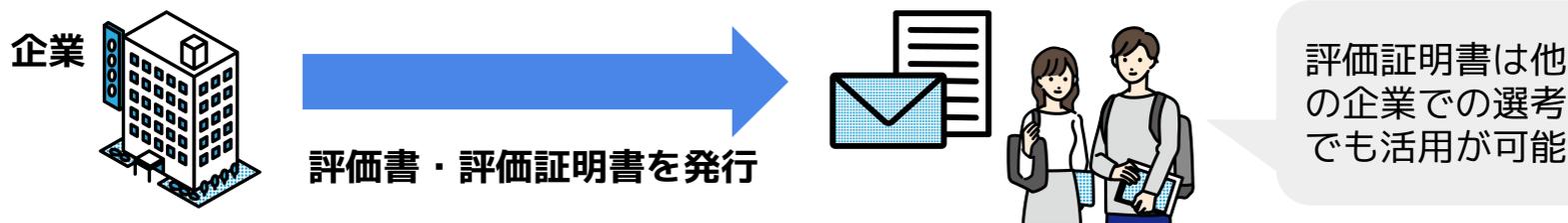
具体的な勤務体系の例

- 週3日勤務
- 週5日勤務だが、休暇を取り大学での活動に参加可
- 週4日勤務だが、基本的にリモートワーク など

## ポイント2 「正規の教育課程として実施」

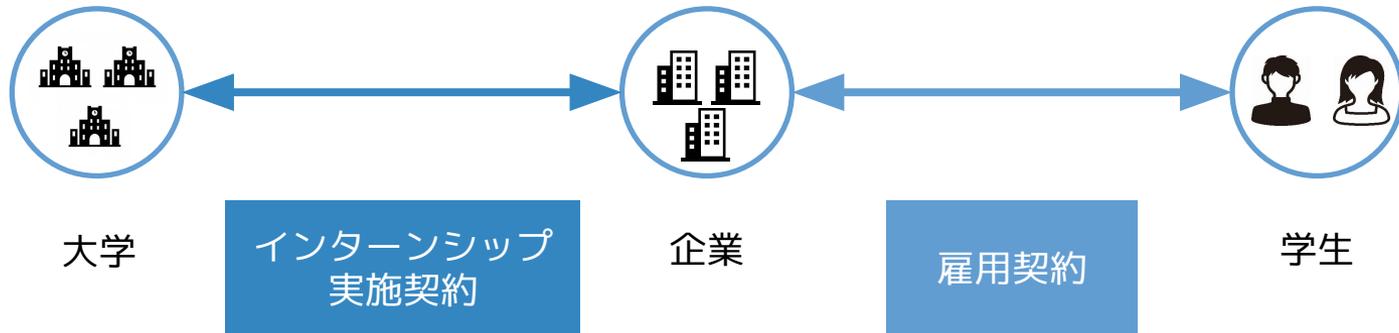


## ポイント3 「インターンシップ評価を採用選考に活用可能」

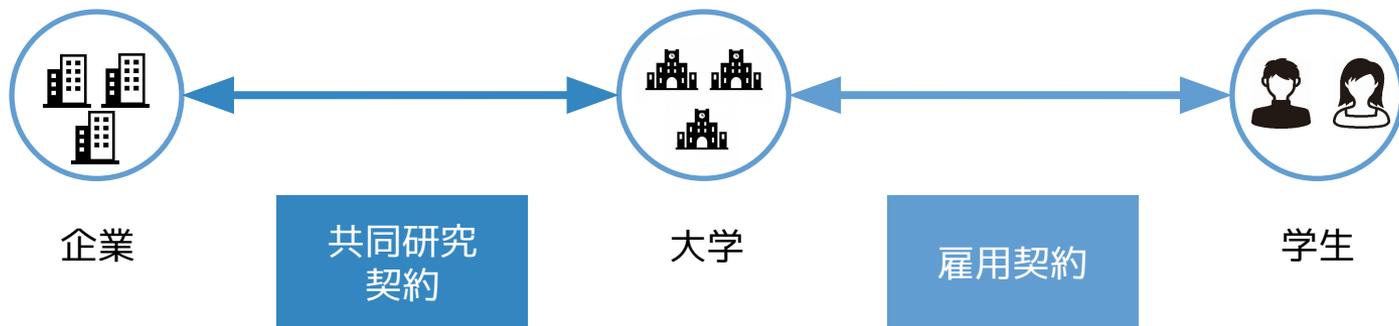


※インターンシップへの参加が必ず採用に直結することを保証するものではありません

## 直接雇用型



## 共同研究型



# 「研究インターンシップ」の捉え方

## 博士学生の専門分野を活かす

ジョブ「映像を用いた人作業や環境を認識する人工知能技術の研究」

JD「業務内容に近い専門分野」: 人工知能  
「必須となるスキル・経験等」: Pythonでの開発経験

×

学生の専門分野: 情報科学、情報工学

## 博士学生の専門分野に捉われない (専門分野を超えたマッチングが成立したもの)

ジョブ「接触熱抵抗の調査研究」

JD「必須となるスキル・経験等」:  
伝熱工学の基礎知識、英語論文の読解 etc.

×

学生の専門分野: 素粒子、原子核、宇宙物理学

## 博士学生の高度な研究活動により培われた課題設定・解決力を活かす

ジョブ「エビデンスによる分析に基づく科学技術イノベーション政策の戦略立案」

JD「業務内容に近い専門分野」:  
情報科学、情報工学、経済学、経営学 etc.  
「必須となるスキル・経験等」: 博士課程に在籍している者

×

学生の専門分野: 応用物理学

# 取組の状況

# 2021年度～2023年度の実績

資料2



大学 84校 \*

登録者数

2,109名 \*

応募件数

247件 \*



企業 59社 \*

募集企業

64社 \*\*

JD数

257件 \*\*

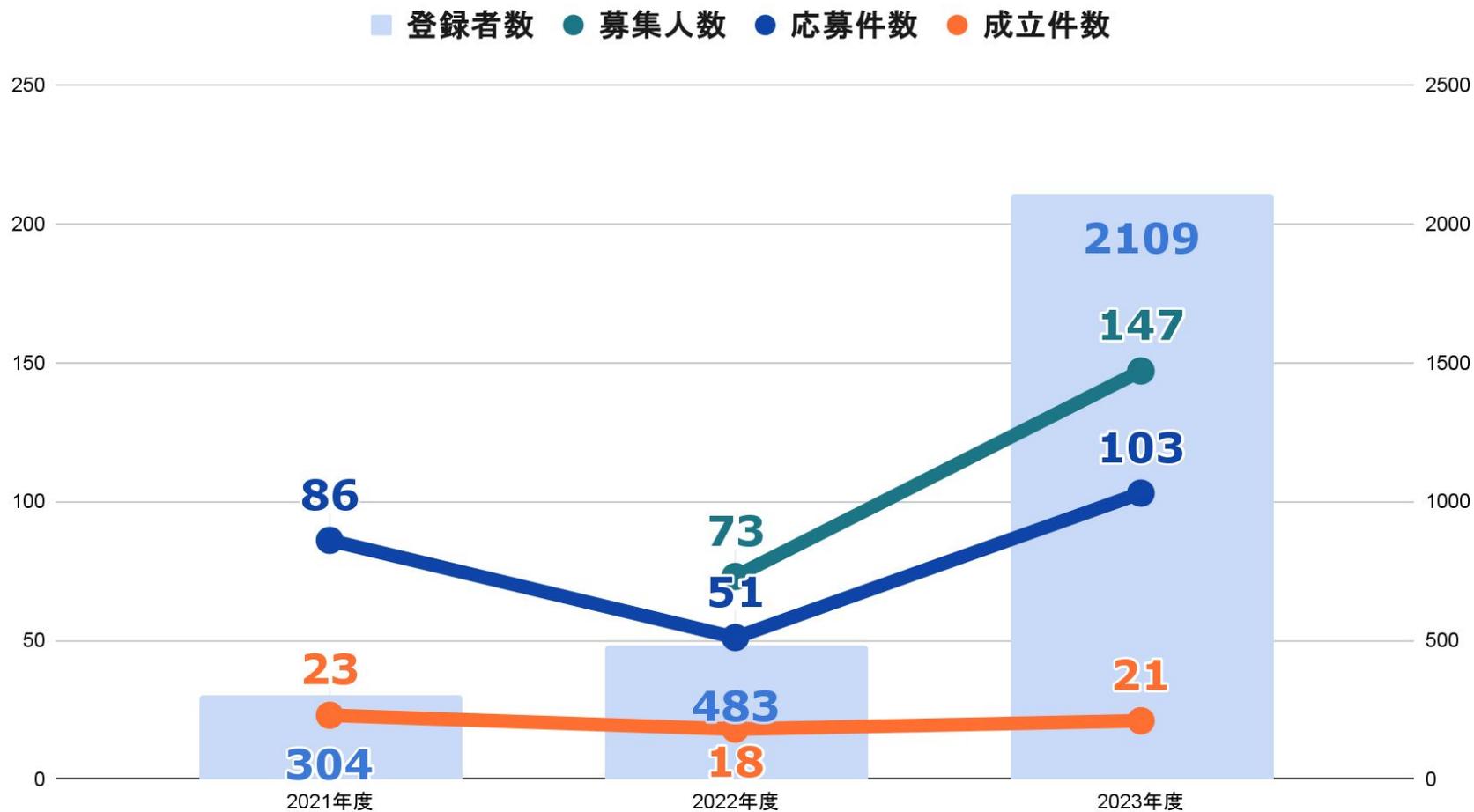


マッチング成立件数

62件 \*

\* 2021年度から2023年度までの累計数

\*\* 2021年度から2023年度までの延べ数



	2021年度	2022年度	2023年度
<b>参画大学数*</b>	53校	64校	84校
<b>登録者数*</b>	304名	483名	2,109名
<b>参画企業数*</b>	50社	50社	59社
<b>JD件数**</b>	63件	64件	130件
<b>募集人数**</b>	—	73名	147名
<b>応募件数**</b>	86件	51件	103件
<b>成立件数**</b>	23件	18件	21件

\* 2021年度からの累計数

\*\* 各年度単年の数値

メーカー（機械系）  
X  
ロボティクス・情報工学

メーカー（製薬系）  
X  
生物学（分子～細胞）

IT企業（ウェブ・アプリ系）  
X  
応用情報学

▶ 主力事業と直結する専門分野でのマッチング

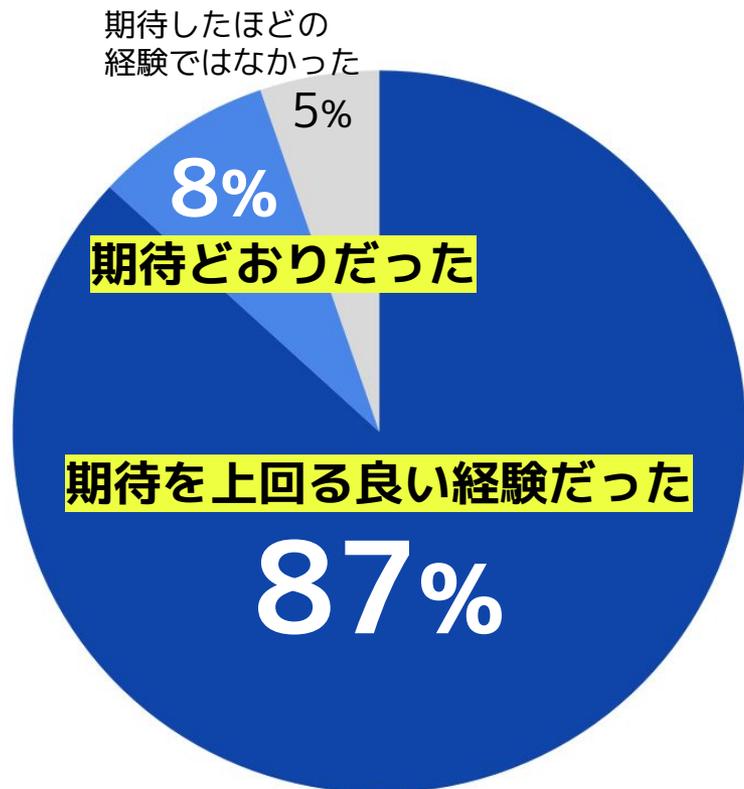
メーカー（機械系）  
X  
代数学・幾何学

メーカー（機械系）  
X  
腫瘍学・人間医工学

文部科学省  
X  
天文学・宇宙物理学

▶ 多角的事業・新領域でのマッチングや  
トランスファラブルスキルでのマッチング

# 学生・企業の声



「受入先でのインターンシップ全体の感想について教えてください」(R3~5年度 / n=38)

## <コメント(抜粋)>

- **大学の研究との違いがとてもよく分かった**
- **最先端の技術**に触れ、新規化合物の探索研究をおこなえた
- **想像していた以上に広い範囲**のことが知ることができた
- 博士課程で培った**トランスファラブルなスキル**を**実際の職場**でどのように活かされるのかを知れたとても良い機会だった
- インターンで取り組んだ研究内容は**実用化を目的とした研究**であり、**異なる視点から研究**に取り組むことができた

専門が異なる人々との協働を通じて、視野を広く持つことの重要性を学んだ。

アカデミアでの研究と産業界での研究の違いを知ることができた。

企業の研究開発では、時間の制約がある中でいかに価値を見出すかが非常に重要であることを身をもって学んだ。

自分の長所と短所を外部から評価してもらえて自信が持てるようになった。

研究に必要な技術や知識、考え方は、自分の専門分野以外にも繋がっていることがわかった。

博士課程で培った経験は別の分野であっても生かしていけること。

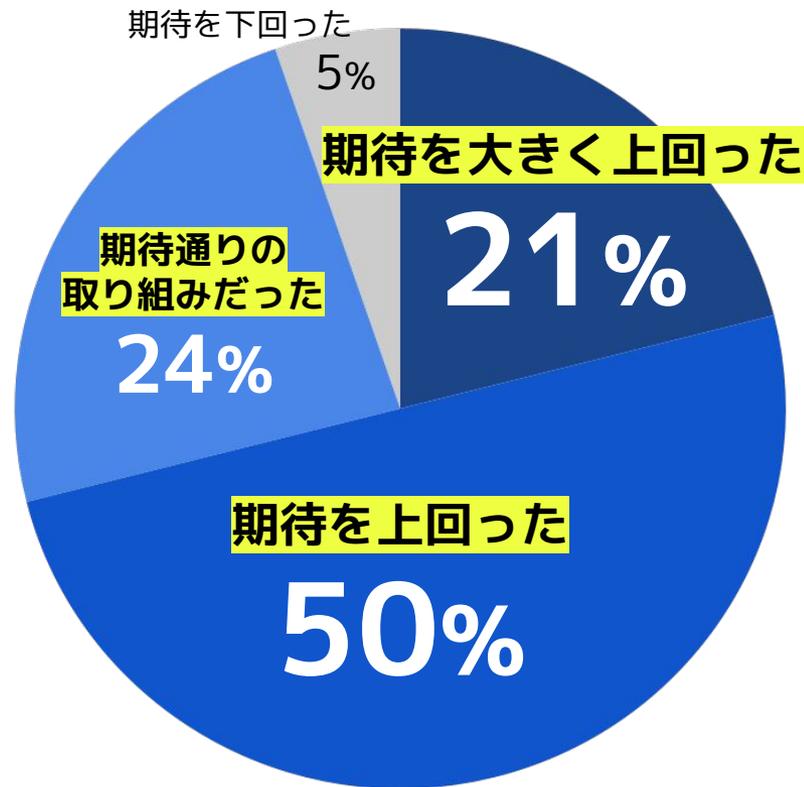
博士課程在学中に養成される能力は、博士課程中の研究に留まらず、むしろ卒業後のキャリアにおいて重要な意味を持つこと。

(学んだことは)現場で研究をする実感、会社のカルチャー、雰囲気。企業研究の考え方、速さ。安全性への高い意識。

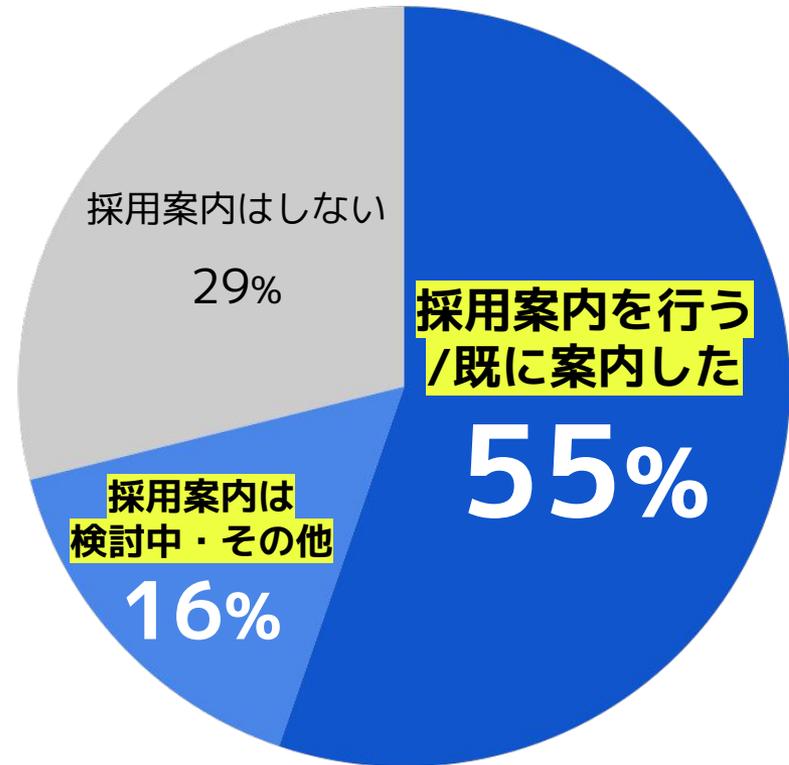
同じ部署の方々と交流する中で、自分の趣向や大学院で培ってきたスキルについて客観的に知ることができた。

I learned the general difference between industry and academia.

応用的な視点を得られたことが学びです。普段は基礎研究がメインだったため、「取り組んだ研究がどのように役立つか」という視点を養うことができました。



「受入学生のインターンシップでの活躍の印象について教えてください」（R3~5年度 / n=38）



「インターンシップ終了後、参加学生に採用に関する案内を行いましたか？」（R3~5年度 / n=38）

- 受け入れた博士学生の**95%が期待通り以上、21%は大きく上回る活躍**
- インターンシップ終了直後の時点で**55%の博士学生に採用案内**を行う意向

インターンシップを通じて**エントリーシートや面接では把握できない学生の性格、能力を把握**することができ、採用活動に有用と感じた

期待以上に**研究業務に貢献**した

**多様な人材の採用窓口**を用意しておきたい（これからも利用したい）

当枠組みならではの**高いレベルの学生との接点**になる可能性があると感じた

**能力が高い学生の採用**につながることを期待

**現場からの評価は高く**、採用で追加の面接などをおこなう必要がない

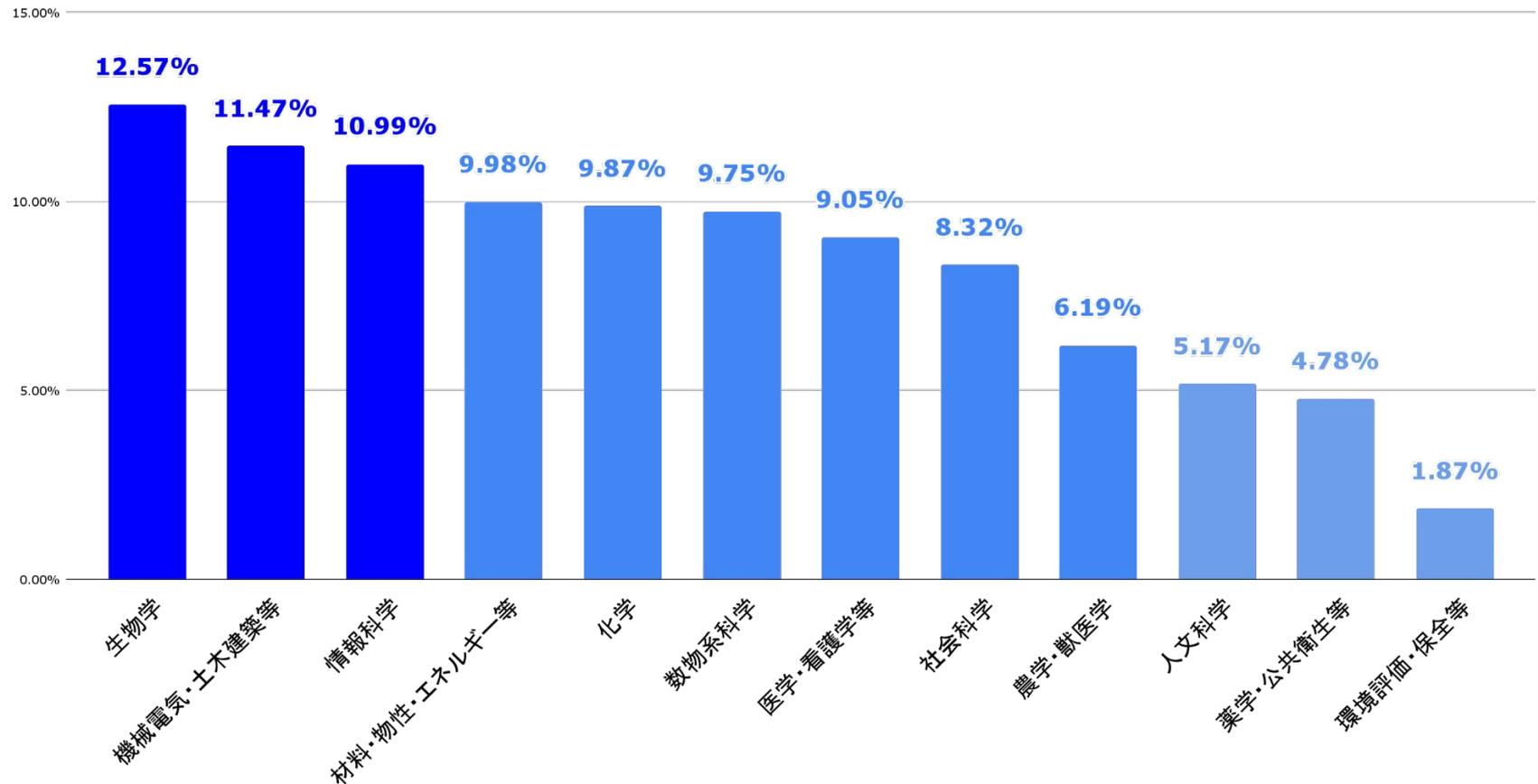
**通常の新卒採用選考では出会いにくいタイプ**の学生と出会えた

今年度の実績を鑑みて弊社側の**求める具体的な人財像を探索する場として有効な取組み**だと考えています

**産学連携の観点で当社にとってもメリットのある仕組み**であると考えている

**優秀な学生さんに出会えるチャンス**であると同時に、**弊社従業員にとってもよい刺激**となる

# 研究分野の情報



<本集計にかかる留意点>

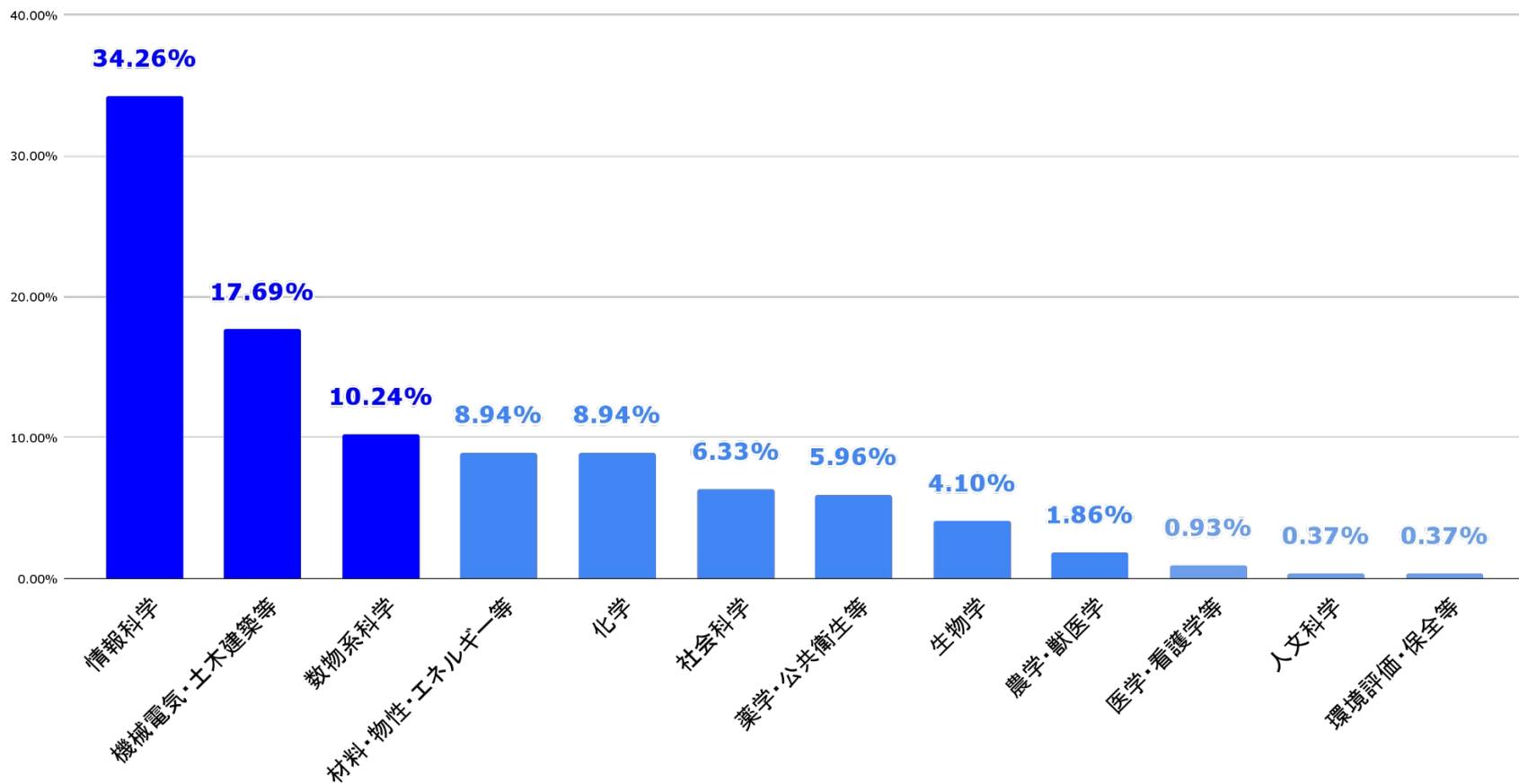
研究分野は、科学研究費助成事業（日本学術振興会）の審査区分表\*における「中区分」の中から、3つまでの選択制となっております。

また、人文社会科学は人文科学と社会科学に分けて集計しております。2021年度から2024年8月末までのデータに基づいています。

\*科学技術・学術審議会学術分科会科学研究費補助金審査部会, 2022, 科学研究費助成事業 審査区分表, 日本学術振興会ウェブサイト, (2023年2月1日取得, [https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/02\\_koubo/shinsakubun.html](https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/02_koubo/shinsakubun.html))

# 募集インターンシップ求人（JD）の研究分野

資料2



<本集計にかかる留意点>

研究分野は、科学研究費助成事業（日本学術振興会）の審査区分表\*における「中区分」の中から、3つまでの選択制となっております。

また、人文社会科学は人文科学と社会科学に分けて集計しております。2021年度から2024年8月末までのデータに基づいています。

\*科学技術・学術審議会学術分科会科学研究費補助金審査部会, 2022, 科学研究費助成事業 審査区分表, 日本学術振興会ウェブサイト, (2023年2月1日取得, [https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/02\\_koubo/shinsakubun.html](https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/02_koubo/shinsakubun.html))

(参考資料)  
マッチング事例紹介

## ◆事例1：沖電気工業株式会社（光学系研究開発） × 田島さん（物理工学分野）

記事内のコメントより引用：

- ・これから社会に出る上で、博士課程在籍中に企業での研究を経験しておきたいと考え、参加を決めました。
- ・詳細なジョブディスクリプションを確認したところ、研究内容と完全に一致するということはないのですが、親和性がありそうだと感じたため応募しました。
- ・仕事内容は私の研究内容とは異なっていたため、まずはOKIさんの行っているセンシングについて勉強することから始める必要がありました。そのなかで、確かに領域は違うのですが、課題をどのように解決していくかというプロセスは大学の研究の進め方とそれほど大きな差はないことに気が付きました。

沖電気工業株式会社「Yumeトーク第66回 OKI初のジョブ型研究インターンシップ、その背景と成果とは？」

[https://www.oki.com/jp/yume\\_pro/yume\\_talks/archives/20221121/index.html](https://www.oki.com/jp/yume_pro/yume_talks/archives/20221121/index.html)

## ◆事例2：株式会社日立製作所（脱炭素ソリューション）× 鈴木さん（環境学分野）

記事内のコメントより引用：

- ・ 研究の世界とビジネスの現場にはギャップがあると思い、現場でどんなことをしているのか知りたくて参加しました
- ・ 博士課程の研究では、特定の分野で専門性を高めています。自分が研究していることの延長線上でキャリアを築いていきたい気持ちがあるので、このインターンシップだと、自分の研究と会社から求められていることにミスマッチがないかを確認できるため、すごくありがたいです。他の学生にとってもよいと思います
- ・ （受入先担当者からのコメントより）「日立のリアルな職場体験をしてもらい、学生が日立を就職先に選んでくれたら嬉しいです。ただ、学生が日立を就職先に選ばなくても、インターンシップを通じて学生の研究やキャリアにとって何か得られるものがある。それで私はいいと思います」

株式会社日立製作所「日立、博士課程の学生対象の“ジョブ型インターンシップ”開始 その狙いとは」  
[https://social-innovation.hitachi/ja-jp/article/job\\_type\\_employment\\_internship/](https://social-innovation.hitachi/ja-jp/article/job_type_employment_internship/)

## ◆事例3：株式会社エア・リキード・ラボラトリーズ（脱炭素素材の研究開発）

Q. インターンシップに参加される学生に期待すること、特に学部生・修士課程学生と比べて博士後期課程学生に期待していることがあれば教えてください。

ひとつ言えることとして、『専門』といっても、学生時代にやる専門というのはたかだか数年なのですね。そうすると学生時代で何をやっているのかと考えると、私は「問題解決能力のトレーニング」をやっているのだと思っています。いろいろな課題があったときにどうやってその問題をみて、その解決をどういう方策で解決していくのか、そういうことをある特定の分野を専攻しながらトレーニングを繰り返しているのだと思います。（中略）博士課程学生は、そういう思考のトレーニング的には十分積まれていて、企業が求める能力に専門性の知識、あるいは専門分野に関する問題解決能力は当然あげられるのですが、ところが一方で、いわゆる『俯瞰力』や『影響力』であるとか、『コミュニケーション』、『リーダーシップ』というものが同時に求められています。

Q. インターンシップ受入にあたって、工夫されたことはありますか。

日本での一般的なインターンシップは非常に短いもので、1週間とかだったりします。そうではなく、私たちがしたいのは、**インターンシップが学生を成長させる機会になり得る**と示すことです。ある企業へインターンシップとして参加した学生が成果をあげ、もしその貢献が社会に役立つものであれば、それはとても素晴らしい機会だと思います。**短期のインターンシップに参加する場合は成果責任までは求められません**し、そのようなインターンシップでは単に「プロセス」の経験にとどまり、学生が十分コミットしたとしても社会までは還元できません。

記事全文はこちら：<https://coopj-intern.com/24e59344336a476b8126f54b4359c093>

## 株式会社 エア・リキード・ラボラトリーズ

### 学生受入実績

2021年度 1名(ロボット工学)

2022年度 1名(流体工学)

※受入人数2名のうち2名留学生

### 2022年度の取組事例（掲載ジョブの内容）

#### Evaluation of novel carbon capture materials and methods for industrial application

In this internship, you could collaborate in the assessment of novel materials for CO<sub>2</sub> capture by using a new test bench and have an active participation in the material fabrication.

採用された方には、炭素回収プロセスをシミュレートできる新しい自動テストベンチの開発と試運転に参加していただきます。このテストベンチでは、安全性、  
記 録  
されたデータの信頼性、さまざまな動作条件をスクリーニングすることによるプロセス効率の向上のために、高度な自動化が必要となります。

インターンシップの開始時には、HSEマネージャーから安全プロトコルと手順に関する基本的なトレーニングを受けます。一方、高度な安全スキルは、マテリアルサイエンスグループのメンバーと協力して開発します。また、CO<sub>2</sub>回収テストベンチの設計・製作や、関連するプロセスパラメータを抽出するためのデータ分析  
にも  
参加し、CO<sub>2</sub>回収プロセスの効率を最適化します。

さらに、イノベーションキャンパス東京の最新設備を利用して、CO<sub>2</sub>回収のための革新的な材料の準備と特性評価にも協力していただきます。

## JX金属 株式会社

### 学生受入実績

2021年度 2名(材料工学)

2022年度 1名(材料工学)

2023年度 1名(化学工学)

※受入人数4名のうち3名留学生

### 2022年度の取組事例（掲載ジョブの内容）

#### テクノロジースカウティング

技術動向調査、技術保有組織の選定、協業仮説構築、対象組織との議論など、調査から協業仮説の開発テーマ化までの一連の活動

具体的には、社員と議論しながら以下を担当していただく。

- 技術動向に関する調査や対象テーマの分解
- 有望セクターの分析
- 有望組織や技術のリストアップ、サマリの作成

## 塩野義製薬 株式会社

### 学生受入実績

2021年度 2名(有機化学、物理工学)

2023年度 2名(生体分子化学、薬学)

### 2023年度 of 取組事例 (掲載ジョブの内容)

#### 癌研究における免疫学研究者

新規がん治療薬の創製を目指した腫瘍免疫研究における、医薬品候補化合物の有効性評価や薬効メカニズム解析、また腫瘍浸潤免疫細胞の機能評価、新規評価系構築等の基礎研究を実施頂きます。

ご自身の経験やスキルを踏まえ、下記のような研究課題から取り組む課題、研究テーマを決定します。

- がん治療薬としての医薬品候補化合物の有効性評価、薬効メカニズム解析
- 免疫療法薬の治療効果や免疫応答の活性化を簡便に判定可能なバイオマーカー探索
- 新規創薬ターゲットの探索と評価
- 腫瘍浸潤免疫細胞の機能評価、新規評価系の構築

## トヨタ自動車 株式会社

### 学生受入実績

2021年度 1名(素粒子物理学)

2022年度 1名(物性物理学)

2023年度 未定(募集中)

### 2022年度 of 取組事例 (掲載ジョブの内容)

#### マテリアルズインフォマティクスを活用した材料の研究開発

将来の車、モビリティ、ロボット、都市インフラなどの性能・機能向上に資する新材料の研究開発を加速し早期な実現に繋げるためには、材料の研究開発への情報科学の活用を強化する必要があります。情報科学を駆使し、データ駆動型の材料研究を推進・牽引する研究テーマに取り組んでいただきます。

- 材料計測データからの特徴量抽出に関する機械学習手法の開発と実装
- 材料の研究開発に関わる各種課題にアプローチするデータ解析ロジックの設計
- 材料計測とシミュレーションを組み合わせた材料データ空間の拡張と構造化に関する技術開発
- 材料探索の高速化と精度向上につながる統計解析手法の検討と開発

## 三菱ケミカル 株式会社

### 学生受入実績

2021年度 1名(高分子科学)

### 2021年度の取組事例（掲載ジョブの内容）

#### 機能性高分子の研究開発

機能性高分子の材料開発に関わる研究開発を担当して頂きます。高分子合成、材料特性の評価・解析が中心の職務です。

ラジカル重合、縮重合等を駆使した高分子の合成、及び基本材料物性の評価・解析、機能評価を進めてもらいます。機能評価では、社内のお他部署と連携しながら業務を遂行することになるため、技術者としての知見を広めることができます。

## 文部科学省

### 学生受入実績

2022年度 2名(応用物理学、高分子・有機材料)

2023年度 2名(情報科学、人文社会科学)

### 2022年度の取組事例（掲載ジョブの内容）

#### エビデンスに分析に基づく 科学技術イノベーション政策の戦略立案

国内外の研究ファンドの状況や最先端の研究を実施する研究者へのヒアリングなどを通じて、エビデンスに基づいた国内外の科学技術に関する技術動向や経済社会や国民生活に及ぼす影響を分析する。

具体的な業務内容は以下のとおり。

- 科学技術・イノベーション政策の振興に関連する数値データ(予算の推移、研究者数、論文数等)を用いた統計分析
- 国内外の科学技術・イノベーション政策の動向調査 など

## 株式会社 日立製作所

### 学生受入実績

2021年度 2名(土木工学、システム情報工学)

2022年度 6名(情報科学、電気工学、海洋産業システム学)

2023年度 未定(募集中)

※受入人数8名のうち5名留学生

### 2022年度の取組事例 (掲載ジョブの内容)

#### 脱炭素・ESG×金融×デジタル技術を活用した新事業開発

##### 職務概要

- 脱炭素やESGなどの新たな金融サービスに向けた or 活用したアイデア創生
- デザイン思考を活用した新事業創生フレームワーク
- IoT/AI/ブロックチェーン等のテクノロジーを活用したアプリケーション創成、プロトタイピング

##### ミッション/期待する役割・責任

- 我々の部署ではESG/GX/ファイナンスを起点とした異業種連携サービスのビジネスモデル及びインキュベーション、及び技術開発を担当しています。
- 学業に差支えない無理のない範囲での従事を期待します。

##### 携わる事業・ビジネス・サービス・製品など

- ESG金融/循環経済にまつわるサービス創生及びその実現のためのアーキテクチャ検討

##### 仕事の魅力・やりがい

- 社会課題解決に向けた新事業創生の一連のプロセスと広い視野を持った研究を体験できます。

## 武田薬品工業 株式会社

### 学生受入実績

2021年度 4名(生命科学、化学、薬学)

2022年度 2名(医療薬学、生命情報科学)

2023年度 1名(応用化学)

※受入人数7名のうち1名留学生

### 2022/23年度の取組事例 (掲載ジョブの内容)

#### メディシナルケミストリー

ニューロサイエンス創薬ユニット アジアNCEプロダクション研究所で、医薬品の研究開発を前進させるためメディシナルケミストリーを担当して頂きます。最先端の化学を用い、化合物の設計及び合成ルートの立案を行い医薬品候補化合物の創出に貢献して頂きます。

#### マルチオミックス研究に関連する分子情報解析基盤およびワークフローの構築

オミックス研究に関連するデータ解析基盤の構築に必要な調査や、プロトタイプ作成を行う。あるいは、オミックスデータを取得する際に必要となる実験操作を実施する。

## 株式会社 島津製作所

### 学生受入実績

2021年度 1名(地球惑星科学)

2023年度 5件(現在募集中)

### 2021年度の取組事例 (掲載ジョブの内容)

#### 接触熱抵抗の調査研究

製品の熱設計を行う上でしばしば問題となる接触熱抵抗に関して、理論や試験法、最近の研究動向などを広く調査して報告書にまとめる。また、様々な性状の接触熱抵抗を測定可能な実験系を検討し、提案する。

接触熱抵抗についての知見を得ることを目的として、

1. 橋の式やその修正式等の理論
2. JISやASTM等の規格で定められた試験法
3. 独自手法での測定事例
4. 最近の研究動向

について広く文献調査やweb調査を行い、報告書にまとめる。また、これらの調査結果を踏まえて、様々な形状・表面性状・締結状態における接触熱抵抗を測定することが可能な実験系を検討し、提案する。



# お問い合わせ先

## <入会・利用などについて>

ジョブ型研究インターンシップ推進協議会事務局  
(マッチング支援機関：株式会社アカリク)

Email: [job-internship@acaric.jp](mailto:job-internship@acaric.jp)

URL: <https://coopj-intern.com>

## <制度全般について>

文部科学省高等教育局学生支援課インターンシップ推進係

Email: [gakushi@mext.go.jp](mailto:gakushi@mext.go.jp)